



カブトムシの森たんけん

令和6年4月24日（水）、十和田市立法奥小学校の総合的な学習の一環で「カブトムシの森たんけん」が行われました。この学習では、地域の森にいるカブトムシの幼虫を採取し、その飼育方法を図鑑で調べたり、地域の方へインタビューを通して知ることによって森の多面的機能について学びながら、地域で生きる生物を大切にしていこうとする心を育むことを目的としています。

今回参加したのは第3学年の9名で、小学校からバスで10分ほどの位置にある地域の協力者所有の山林へやってきました。そこで地元の奥瀬堰土地改良区職員から森の役割、カブトムシの幼虫に触れる時の注意点などの説明を受け、採取を開始しました。



【奥瀬堰土地改良区職員から説明を受ける子供たち】

カブトムシの森では地元の方が協力し、カブトムシの繁殖に適した環境となるよう維持管理してきました。その結果、毎年夏になると多くのカブトムシが産卵にやってくるようになりました。子供たちが軍手をはめた手で幼虫が傷つかないように優しく土を少し掘ると、ぷりんと太った大きな幼虫がコロコロとたくさん見つかりました。早い子は数分で10匹以上の幼虫を見つけ、小学校で待つ低学年の子供たちのためのお土産として別容器に集めていました。



【土を掘って幼虫を採取する様子】



【大きなカブトムシの幼虫】

カブトムシの幼虫の採取では、虫が苦手な子供はキャーキャーと小さな悲鳴を上げながら土を掘り返していました。しかし何匹も見つけ、自分の飼育ケースに入れているうちに慣れてきたようで、最後には「なんだかかわいく見えてきた」と笑顔を浮かべながら幼虫をじっくりと観察していました。

カブトムシの幼虫は順調に育てば7月の下旬には蛹から羽化し、地上に姿を現すとのことでした。子供たちは今からどんな大きさのカブトムシになるのか楽しみにしながら、改めて地元の方にお礼の言葉を返していました。



【地元の方へお礼】



【集合写真】

関連事業：中山間地域ふるさと活性化事業（通称：ふる水基金、棚田基金）

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noson/hurumizutanada.html>

7月3日（水）追記

取材の時にご厚意で幼虫を2匹いただき、筆者のデスク内で育てていたのですが、どちらも無事に羽化しました。

素人飼育ではありましたが立派に成虫まで育てることができて感慨深いです。



オス 約60mm



メス 約40mm